

展示期間：令和5年4月26日～6月30日

志野とは

志野は美濃窯（現在の岐阜県土岐市・多治見市など）で生産されたやきものです。長石釉をかけることで白さを際立たせており、鉄絵の具による下絵付けは唐津焼とともに日本で最初といわれています。

志野は茶碗をはじめとして、向付、水指、香合といった茶陶関係の器種を中心に生産していました。今回は、堺環濠都市遺跡から出土した様々な志野をご覧ください。

志野 瓶



草花を2か所に描いた瓶です。様々な茶道具と共に出土したことから、茶の湯の場で使用されていたものと思われます。

SKT929 地点(堺区車之町西1丁)出土

17世紀初頭

堺市文化財課所蔵

志野 香合



香合とは、中にお香を入れてその香りを楽しむための容器です。発掘調査時には見つかりませんでしたが、本来は蓋も付いています。上記の志野 瓶と共に出土しました。

SKT929 地点(堺区車之町西1丁)出土

17世紀初頭

堺市文化財課所蔵

志野 向付



向付とは、懐石料理に用いる器種の一つで、基本的は「そろえ」という数点のセットで所持します。形は皿に近いものから筒状のものまで様々です。

ロクロ成形した後、型打ちにより整えた向付です。底部を浅く削り込んでいます。

SKT448-2 地点(堺区戎之町西)出土

17世紀初頭

堺市文化財課所蔵

志野 丸皿



内面に葡萄唐草文を描いた皿です。外面は右ロクロのケズリ調整がみられます。江戸時代初期のものと思われます。

SKT61 地点(堺区車之町東1丁)出土

17世紀初頭～前葉

堺市文化財課所蔵

発掘調査地点解説

SKT929 地点（堺区車之町西 1 丁）

SKT929 地点の発掘調査では、慶長 20 年（1615 年）に焼失した長辺が 10m 前後を測る大型のせん列建物を 4 棟検出しました。その中から今回展示している志野をはじめとする多くの茶道具が出土しました。

SKT448-2 地点（堺区戎之町西）

SKT448-2 地点での発掘調査では、慶長 20 年（1615 年）に焼失したせん列建物跡や礎石建物跡を多数検出しています。そのうちの 1 つの建物跡から、今回展示している志野向付のほか、瀬戸茶碗、軟質施釉陶器（楽系）茶碗、織部水注などが出土しました。

SKT61 地点（堺区車之町東 1 丁）

SKT61 地点の発掘調査では、計 7 面の遺構面を検出しており、備前・信楽・瀬戸美濃などの国産陶磁器や、青磁・白磁・青花などの輸入陶磁器も出土しました。